

ペルシャのアハシュエロス王（クセルクセス一世）は戦いを前にして豪華な宴を設けて広く人々を招いたのです。王妃ワシュティの来宴を計りますが、拒否されて怒りました。法令に詳しい首長たちに相談し、ワシュティの王妃の資格剥奪を決定します。横暴と思えるやり方ですが、この出来事がユダヤの民族に思わぬ道を開くこととなります。

### 1. 王宮へと（1～11節）

- ①エステル（1～7） ギリシャ遠征から戻ったアハシュエロスに若い者が新たなる王妃捜しの進言がされます。宦官ヘガイの管理の下にこれが行なわれることを王は受けいれます。さて、シュシャンの城にモルデカイというユダヤ人がいました。捕囚されてきたユダヤ人の子孫でした。彼はエステルというペルシャ名をもつ美しい女性を養子としていました。彼女のユダヤ名はハダサ（ミルトスの木の意味）でした。
- ②多くのおとめ達が（8～9） 法令（王の命令）により、多くのおとめたちが王宮に集められます。エステルもそこに行くこととなります。監督者ヘガイは彼女に注目して特別扱いします。外見の美しさプラスアルファがあったのでしょうか。
- ③自分の生まれを明かさず（10～11） エステルは自分がユダヤ人であることを明かしませんでした。それはモルデカイの忠告でした。彼女は養父に忠実でした。ダニエル書において、ダニエルたちは迫害をも恐れずに立場を明確にしました。エステルは素性を隠しました。養父モルデカイの策でした。そのモルデカイはエステルの安否を気遣い、動向を探るべく庭の前を歩き回っていました。

### 2. 王冠がエステルに（12～18節）

- ①準備期間（12～14） おとめたちはアハシュエロス王に会うために一年間の準備をしました。没薬の油により肌を滑らかにすること六ヶ月、他の香料での化粧で六ヶ月。所作などを学ぶ時でもありました。やがて王の前に出るときには必要な物を要望することもできました。監督官で宦官のシュアンシュガズの管理のもとに、彼らは順番に王のところに入って行くのでした。
- ②好意を得て（15） さて、いよいよエステルの番がやってきました。15節に彼女の実父の名前がアビハイルで、養父モルデカイの叔父であることが記されています。エステルは宦官ヘガイが勧めたもの以外は何も求めませんでした。余裕が感ぜられます。エステルの性格、所作は周囲に好意を得ていました。
- ③王妃へと（16～18） エステルが王の前に出たのは王の治世第7年（BC479年頃）のテペテの月（太陽暦12～1月）。王は彼女をとて気に入り入ります。彼女は好意と恵みを受け、ついに王妃の地位を得ることとなります。その披露のために、すべての首長と家臣たちが集められて大宴会が催されました。エステル自身、どうしてこのようなことになるのか理解していなかったでしょうが、神のご計画でありました。

### 3. 以前と同じように（19～23節）

- ①娘達を集め（19） 18節の時点から19節の間には少し時間の経過があります。エステルという王妃が決まったのですが、一方で王はさらに娘たちを集めます。エステルは孤独感をもつこともきっとあったでしょう。
- ②言いつけに従い（19～20） モルデカイはエステルの立場を思い計りつつ、王の門のところへすわっていました。一方エステルは王妃になった後も養育されていた時と同じように、養父の教えを忘れず、素性も明かしていませんでした。きっと、主なる神の名をあがめながら、祈って過ごしていたことなのでしょう。
- ③暗殺計画（21～23） さて、モルデカイが王の門の前に坐っていると、ふたりの宦官ビグタンとテレシュが王の暗殺計画を練っていることがわかりました。そこで、モルデカイはエステルを通して王にこのことを伝えます。事実は明らかになり、彼らは処刑されました。王の年代記に記録されているともあります。

**【結論】** 先週は一章の出来事から「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」（ローマ8:28）という御言葉を学びましたが、今朝は「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現します。」（ヨハネ14:21）から学びます。

エステルはペルシャにあって養父モルデカイに育てられましたが、その薫陶はユダヤの信仰に基づくものであったでしょう。律法を教えながら、知恵の書などからも彼女は育てられていったと考えられます。エステルのうちに醸成された美しい点は、その従う心でした。「あなたの父と母を敬え」という戒めを忘れず、彼女はモルデカイの導きに忠実でした。「人はみな上に立つ権威に従うべきです」（ローマ13:1）とありますが、エステルはモルデカイから教えられたことを忘れませんでした。彼女には一般の人々にも魅力を放つ品格が備わっていました。外見ばかりでなく、内側の美しさが外に光を放っていたのでしょうか。それが、ヘガイの心を動かし、アハシュエロス王に気に入られて王妃となりました。そしてやがて、ユダヤの民を救うことへとつながっていくのです。エステルの主に従う心を私たちがいただきます。そのために、イエス・キリストのことをいつも思い、御言葉を大切に歩んでいきましょう。主がきっとあなたにのぞんで祝福をくださいます。